

「ヒミズの観察 (2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

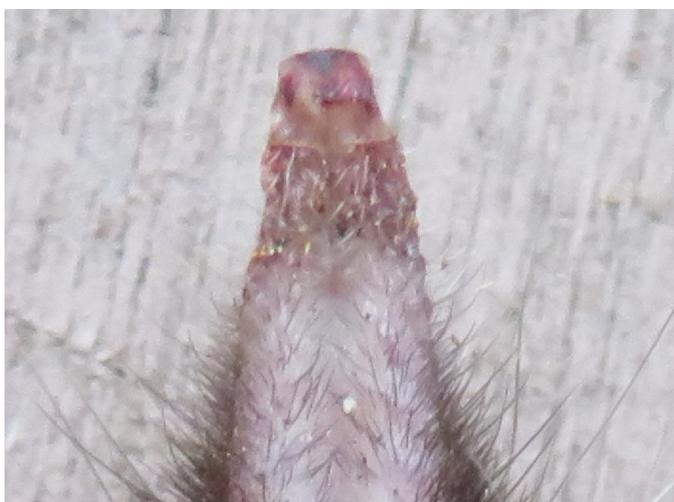
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

ヒミズとモグラは同じモグラ科の小動物である。モグラは一生のほとんどを地中で生活するのに対し、ヒミズは落ち葉の下の溝のような場所において、夜間には地上に出て来る点がちがっている。地上でモグラのような生き物を見たら、それが生きていても死んでいても大抵は「ヒミズ」である。しかし、ヒミズも主に夜間に活動するので、あまり目にする機会はない。太陽を見ないから「日見ず」という名がついた。



形態上のモグラとの相違点は、尻尾が長いことだろう。モグラは地中の生活が大部分なので、尻尾はあまり必要ないらしい。ヒミズは全長の3~4分の1を尻尾が占めている。



口(吻)もモグラよりも細長いのが特徴だ。尻尾と口の形状を見れば、だいたいモグラと区別できる。



すでに死んでいたが、めったにお目にかかれないので、詳しく観察してみた。ヒミズのもう一つの特徴は、上顎前歯(切歯)が非常に大きく、犬歯のように尖っていることだ。ヒミズが雑食なので、この歯でさまざまな食べ物をかみ砕くのだろう。



前肢(「前足」と書くのは誤り)は、爪が異常に発達し、まるで妖怪のようだ。この前肢で土を掘って、獲物を探すのだろう



後肢の爪も長く、より尖っている。ひっかかれたら怪我をしそうだ。子どもたちがヒミズに気づいてくれたおかげで、珍しい動物の観察ができてよかった。